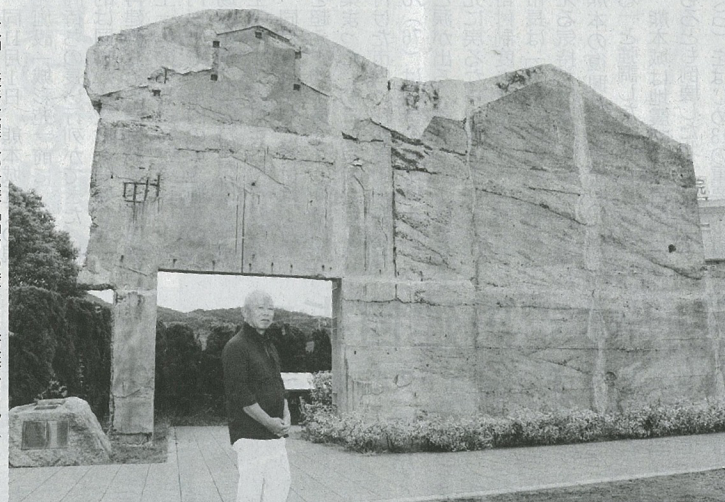
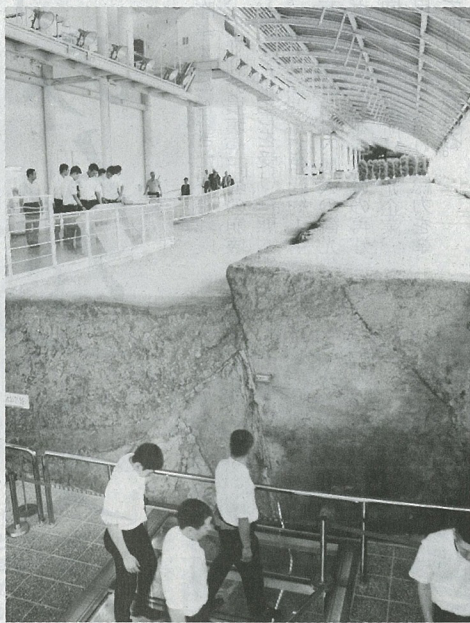


モノの「語り部」後世に

三原泰治は1995年6月17日、阪神大震災で激震と大火に襲われた神戸市長田区で、夕日にたたくむ物体に目を奪われた。「悲壮な美しさを感じ」「神戸の壁」と名付けた。壁は27年ごろ公設市場の防火を目的に建設、神戸大空襲と大震災を生き抜いたものだった。「人類と自然の共生」を掲げ、街頭パフォーマンスをするアーティストでもあった三原は、自分も街も震災への備えがなかったことに悔しさと怒りが収まらなかった。物言わぬ壁を「震災の語り部」として後世に残すことこそ使命だと思っただ。



阪神・淡路大震災の遺構「神戸の壁」と三原泰治さん(2011年9月、兵庫県淡路市・北淡震災記念公園)



140 縦にわたって展示されている野島断層を見学する学生たち(2016年9月、兵庫県淡路市・北淡震災記念公園)

反対にひるまず

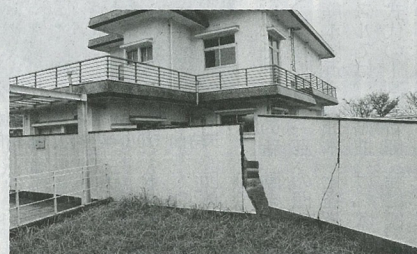
大震災で震度7の地震が淡路島西北部にある北淡町(現淡路市)を襲った。38人が死亡、全住家の9割以上に当たる約3300軒が全半壊か一部損壊する被害を受けた。町の地表には地震を引き起こした活断層が出現した。すぐに地質学者らが日参、「野島断層」と名付けられ、保存を求める声が増え、町長の小久保正雄(故人)に届いた。「これを使って町おこしができるか。こう考えた小久保は1月

困難乗り越え遺構保存

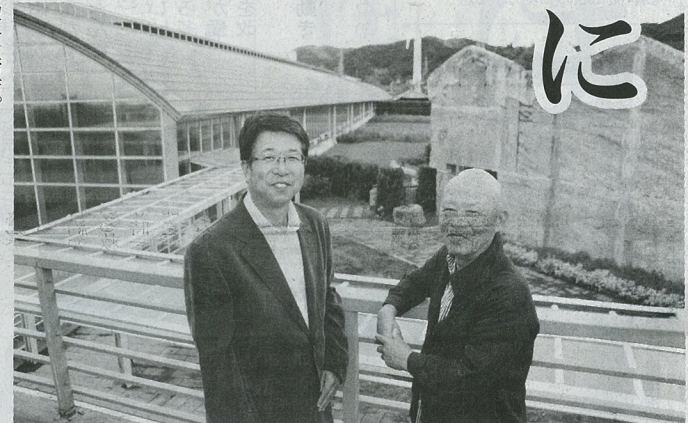
末、早くもマスコミに保存を表明。町民から「思い出したいくない」などと反対の声が上がったが、断層をビニールハウスで覆うなど風雨対策を講じ、専門家で構成する保存検討委員会も設置した。

最大の焦点は保存施設をめぐるとの交渉だった。町は95年夏に県へ記念公園の整備を要請。96年初めに知事の貝原俊民(故人)が号令し、5月末に県企業庁と町が協定を締結。用地は町で確保し、施設は企業庁が建て50年間にわたって町に有償貸与することが決まった。最終的に県が約27億円、町は約15億円を負担した。

明石海峡大橋開通3日前の98年4月2日、140がわたって断層を展示する保存館を移し北淡町震災記念公園(現北淡震災記念公園)がオープン。同7月には、断層が国の天然記念物に



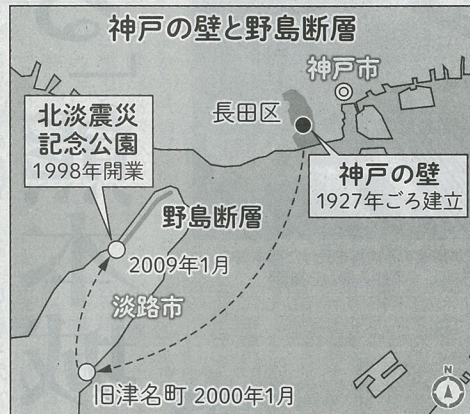
破壊を免れたメモリアルハウス。断層のずれによって壁が真二つに割れている。家の中では震災の語り部がガイドしている(2016年9月、兵庫県淡路市・北淡震災記念公園)



神戸の壁と野島断層保存館の前に立つ三原泰治さん(右)と北淡震災記念公園の宮本肇総支配人(2016年9月、兵庫県淡路市)

「安住の地」に移設 05年に津名町と北淡町を含む5町が合併して淡路市が発足。門康彦市長の英断で09年1月、神戸の壁は記念公園に移された。大震災から14年、三原の執念が壁を「安住の地」に導いた。15年4月に総支配人に就任した宮本と三原は意気投合、遺構を活用して防災文化の「継承と発展」を図る実行委員会を設立、さまざまなイベントを展開し、精力的に活動している。(敬称略)

2017年1月4日(水)
【島根日日新聞】



阪神・淡路大震災の遺構めぐる動き

| | |
|------------|------------------------|
| 1995年1月17日 | 阪神淡路大震災発生 |
| | 野島断層(以下断層)が出現 |
| 2月 | リメンバー神戸プロジェクト発足 |
| 6月 | 三原泰治氏、「神戸の壁」と出会う |
| 96年 | 1月 神戸の壁で追悼集会(以後毎年1月開催) |
| | 5月 兵庫県企業庁と北淡町が断層保存で協定 |
| 98年 | 4月 北淡町震災記念公園(断層保存館)開業 |
| | 7月 断層が天然記念物に指定 |
| 99年 | 4月 メモリアルハウス公開 |
| 2000年 | 1月 神戸の壁、兵庫県津名町に移設 |
| 05年 | 4月 5町が合併し、淡路市が誕生 |
| 09年 | 1月 神戸の壁、北淡震災記念公園に移設 |
| 15年 | 10月 断層保存と神戸の壁で継承発展委員会 |
| 16年 | 3月 宮城県南三陸町で被災地語り部シンポ |
| 17年 | 2月 淡路市で第2回語り部シンポ開催へ |